

平成 30 年(2018 年)ゴリ資源の現況把握調査

亀甲武志・西森克浩・孝橋賢一

1. 目的

ヨシノボリ類稚魚である“ゴリ（ウロリ）”は琵琶湖の重要な水産資源の一つであるものの、資源生物学的な知見に乏しい。そこで、資源状況把握の一環として、ビームトロール網によるモニタリングを行った。

2. 方法

ゴリの主要漁場である薩摩地先（水深 4m、7m、10m、13m）および松原地先（水深 8m）、沖島地先（水深 8m）において、ゴリ調査用に開発したビームトロール網（ビーム長 3m、袋網目合 1.4mm）を用い、1.2～1.5 ノットで 6 分間曳網し、採集を行った。採集したサンプルは現場にて 10%ホルマリンで固定し、ソーティングを行ったが、体型が小さく、種判別の困難なハゼ類は、便宜的にゴリとし、計数した。

本調査によるゴリの採捕尾数は、例年、6 月頃から取れはじめ、7 月頃に最も多くなる変動を示している。そこで今年度は 6 月から例年最大値となる 8 月にかけて、のべ 3 回調査を行った。

資源指標値の評価については、携帯型 GPS にて曳網開始時と終了時の位置を記録し、曳網距離を計測し、100m 曳網当たりのゴリの採捕尾数として評価した。

3. 結果

ゴリの平均採捕尾数は、例年漁期直前の 7 月の水深 7、8m でよく採捕されることから、過去のデータと比較した(図 1)。2018 年は 2017 年よりも少なかった。一方で水深 4m 地点では例年になく多く採捕された。松原、沖島、薩摩の水深 10、13m での採捕尾数は薩摩の水深 7m より少なかった。近年の研究からゴリには複数種が含まれていることが判っており、これらの水深で採捕された個体を遺伝

的手法で種判別を行う必要がある。

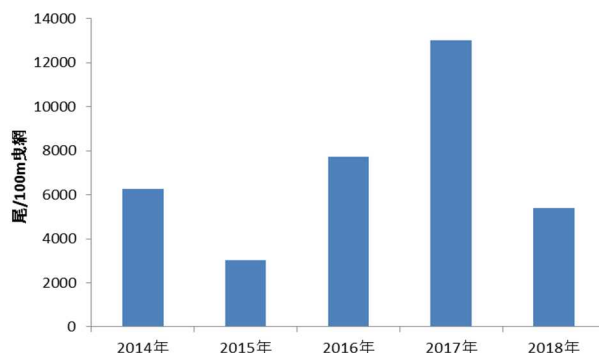


図 1 薩摩の 7 月調査時の水深 7m 地点のゴリ採捕尾数

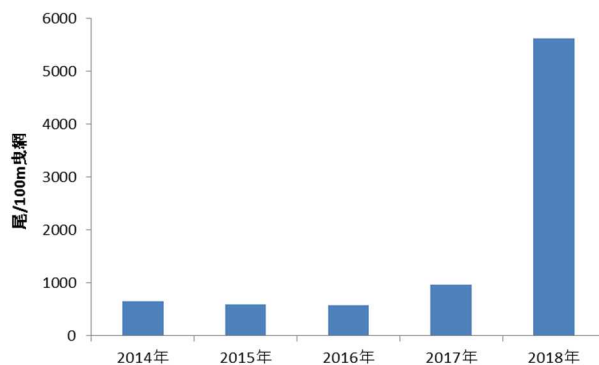


図 2 薩摩の 7 月調査時の水深 4m 地点のゴリ採捕尾数